



平成23年11月17日

プロバイオティクスによる下痢症の予防

<概要>

プロバイオティクスとしての乳酸菌飲料の下痢症予防効果について、コルカタ市(インド)の小児(1～5歳児)約4,000名を対象として、二重盲検試験による野外実験を行いました。飲料摂取中の12週間、および摂取後の12週間(あわせて24週間)について観察したところ、観察期間の全般にわたって、乳酸菌飲料摂取群では下痢症の発症率が14%抑えられました。しかも下痢症を抑える効果は、コレラ菌、赤痢菌、ノロウイルスなど、多種類の微生物の感染において観察されました。今回の野外実験により、乳酸菌飲料が摂取者の免疫力を高め、下痢症を予防することが示唆されました。現在は若年者と高齢者を対象とした野外実験を行っています。

<本文>

1. コルカタ市の小児(1～5歳児)3,785人を無作為に2つの群に分けました。そして、1つの群(1,802人)には乳酸菌飲料、もう1つの群(1,783人)にはプラセボ(乳酸菌を含まないもの)を12週間、毎日飲んでもらいました。飲料摂取中および摂取後12週間のあわせて24週間にわたって、小児の健康状態を観察したところ、飲料摂取群では608人、プラセボ摂取群では674人が下痢を発症しました。つまり、**乳酸菌飲料は小児の下痢症の発症を有意に抑えました。**
2. 下痢の発症率について比較したところ、プラセボ摂取群が1.029回/年であったのに対し、飲料摂取群では0.88回/年となり、**14%の下痢症予防効果がみられました。**
3. 下痢の原因微生物の比較結果では、飲料摂取群の下痢症予防効果は、多種類の微生物(コレラ菌、赤痢菌、ノロウイルスなど)の感染において認められました。
4. この野外実験は、コルカタ市の岡山大学インド感染症共同研究センター、インド国立コレラおよび腸管感染症研究所、ヤクルト本社の3チームの共同研究として、2010年に実施しました。
5. 研究成果は「Epidemiology and Infection, 139:919-926, 2011」に発表しました。

<お問い合わせ>

岡山大学 薬学部・三好 伸一

(電話番号) 086-251-7966

(FAX番号) 086-251-7966